

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201435		
法人名	株式会社ケアサービス希慈		
事業所名	グループホーム希慈		
所在地	宮城県石巻市新成3丁目9-17		
自己評価作成日	平成 30 年 1 月 11 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成30年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「介護してあげてます」ではなく「介護させていただいております」を常に忘れずに利用者さまの生活を第一に考え利用者様にあった生活リズムで日々笑顔を絶やさず穏やかに過ごせるようにしております。毎月利用者様のスナップ写真とメッセージを添えて現状報告をさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

女川に続くJR石巻線の万石浦駅を東に、垂水山を背にして「グループホーム希慈」がある。周辺に多くある住宅はどれも真新しく、地域コミュニティ形成や住民交流については途上にある。この地に居を移して3年目を迎え、「介護させていただきまます」の事業所理念を根幹にして、本人本位の支援を継続している。それぞれの職員がそれぞれの自己目標を掲げて、入居者の生活を支えている。職員は「話し上手聞き上手」を意識し、入居者一人ひとりを把握し理解することで、その人に合ったケアを心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム希慈

)「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の他に職員の理念もケース記録に貼り会社の理念と自分が掲げた理念を忘れなで実践できるようにしている。	理念の「介護させていただきます」を理解し、各職員が年度目標を掲げている。「目配り、気配り」や「緊急時の判断力、対応力を養う」などの目標を、観察を通して入居者の変化を察知するなど、ケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員の方から地域の情報を聞き入れて、地域に溶けこめるようにしている。	隣の地区の夏祭りに参加した。正月には地域の獅子舞が来てホールを賑わした。踊りや三味線のボランティアの来訪がある。新しく開校した渡波中学校へ挨拶に行くなど、地域交流につながるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんの力をお借りして運営推進で施設のことを報告し民生委員の方からも発信していただくようにしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、開催した行事や予定などの報告を行い会議に参加した方々からの質問や意見などを伺い次に活かせるようにしております。	家族の参加が多い。「避難情報が出た時」の質問に、渡波中学校に避難する事を説明した。高齢者向けのゲームはないか等、ホームから相談することもある。不定期の開催で、現在まで4回、来月1回の予定である。	県のガイドラインで、年6回以上の開催と行政職員等の出席を求めている。報告にとどまらずヒヤリハットや事故なども含め情報開示の上で、意見がもらえる会議にしていきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	心配事や不安が有る時は介護保険課に電話入れたり、直接で向いて相談し、蜜に連絡取るようにしております。	実地指導の際に、冷蔵庫の食品保存の仕方やプラン作成後の家族の同意の取り方、洗面台への手洗い順序の写真表示など助言を受けた。地域包括職員から、入居者の照会や認知症カフェの情報提供があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア内容を工夫し、外に出たいと希望があれば職員が付き添いますし、玄関は夜間以外は常にオープンです。	勉強会では、車いすのテーブル寄せやベッドの壁寄せ、柵使用が拘束になることを学んだ。入居者が興奮状態になった時は、間を置いて対応する職員を変えるなどで気分転換を図っている。拘束は寝たきりやADLの低下を招く弊害があるとの認識をもっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの時に話し合いを設けて虐待に付いて勉強会を開いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要な利用者様には制度は活用できるように支援行いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は契約書や重要事項を説明し入居者・ご家族の不安などを伺い安心して生活できるように致しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が施設に面会にこられた際にその都度お話を伺い、近況報告を致しております。	家族は毎月の写真とコメントを楽しみに待っている。入居者のケアに関して、拒んだり不機嫌だったりすることについて話し合い、家族から意見をもらうこともある。通院同行の依頼に応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1度職員会議を開催し投票箱を置いてその意見を話し合い、より良い運営に反映するようにしております。	敬老会での仮装や芋煮会で皆でエプロンを付けて調理する、花火大会をやめて、スイカ割りを楽しむなど反映した。直接言えない意見を取り上げる(投票箱)取り組みがある。職員の事情に合わせてシフトの変更を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員勤務状況を把握し、意見や相談を聞き入れ出来る限り働きやすい環境をつくりに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各機関が開催する研究会や講習・公演に出来るだけ参加し勉強会など開いております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の勉強会などに参加し、他の施設を見学して交流を深めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員で使用者の状況を把握し、本人の趣味や希望・要望など取り入れて安心して穏やかな生活が過ごせるように致します		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や入居説明の際ホームで生活する上で不安・要望を確認し納得されるまで話し合い信頼関係を気づいていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活状況やADL、精神状態を把握し今までのライフスタイルを継続できるように介護サービスを支援致します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様本位の介護支援を心がけ利用者様から家族と思っていただけるような信頼関係を作っていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にこられた際は利用者様の現況を必ず報告し、又付くには一度は写真とコメントを添えております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からのかかりつけ医院の受診や外出を通じて大切な関係が途切れないよう支援しております。	通院時に家族と外食をしたり、宗教の信仰を続けるなどしている。入居者が「前からしていた」と、自発的に洗濯物たたみをしている。新入居者がホームに馴染めるように、コミュニケーションを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の席の配置も考え利用者様がともに楽しめるような行事・ゲーム等を考え毎日が楽しく過ごせるように考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も利用者様・ご家族との関係を大事にしご相談を受けた際はアドバイス等行い支援しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から暮らしへの希望や意向について情報を収集し職員同士情報交換を行いながらケアに反映させている。	食えることが大好きで、食べ物の要望が多い。浜の出身者が多く、魚料理や刺身が好まれる。言葉で表現しない入居者の、眠い時やトイレなど、その人の表現を把握して対応している。家族の健康を願う思いが多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の段階から利用者様・ご家族から情報を収集し、また入所後の会話で情報を活用しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活スタイルを尊重しADL・残存能力を全職員が把握し支援を行う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行っておりますミーティング・カンファレンスにて意見を出し合い主治医やご家族からの意見を統括しケアプランを作成する。	宮城県版の課題用紙を使用している。家族の「健康で」の意向を受けて、下肢体操や散歩、トイレ誘導と観察で清潔保持を計画に入れた。計画書のニーズや目標を継続とする場合、計画書はそのまま継続している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況をケース記録に記載しその他すぐ状況確認ができる記録表を作成し業務に入る前に確認し朝の申し送りで情報を共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する利用者様のADLやニーズに対応しているまた定期以外の受診も必要に応じ支援します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人一人の生活歴を把握し人生の核となっている地域資源を理解し、活用しながら生活支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の要望に添い、利用者様それぞれのかかりつけ医院に定期的な受診し担当医へ現状を報告し指示を頂いている。	受診の際に、本人の状況を正確に説明できるとして職員が同行している。結果は引継ぎ時に伝達している。変化時の受診要否の判断は、「自分の親だったら」を基準に、職員がしている。訪問歯科診療が受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置してない為、状態の変化が見られた際かかりつけ医院を受診し担当医へ状況報告し指示を頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が定期的におお見舞いに伺い状態の把握に努め、利用者様が安心して戻って来れるよう配慮している。また、退院の際はご家族・医療従事者へ留意事項の確認を行い退院調整を行います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族がどのような終末期を望んでいるのか早い段階で話し合い、出来るだけご家族の希望に添うように支援いたします。	「ターミナルケア(看取り)について」の文書で、入居の段階で説明している。「人生の終着まではお手伝いしたい」とし、医療的処置が必要な際には契約解除を明示している。その時期は、医師からの指示で、「口から摂取できなくなったら」を目安にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し社内研修を定期的に行い、緊急対応・初期対応について知識と技術の向上を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年数回避難訓練・通報訓練をおこなっております。又緊急連絡網を作成し職員は瞬時に駆けつける様になっております	夜間想定を含む年4回の訓練をした。夜間想定訓練後の反省として、緊急ベルは鳴るが「大きな声で近隣に応援を」と記している。居室の入り口に名札があり、それを付けて避難し、空き室確認の目印にしている。	

希 慈		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛けも他の利用者さんにきずかれないように耳元で声掛けをする尊厳や個性を尊重しその人に合った支援を行っております。	将棋好きの人に対戦相手を探したり、目が不自由な人の自分でしたい気持ちを尊重して、筆筒の整理を見守るなどしている。プライドに配慮して伺いを立てる言い方をするなど、その人に合った支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立支援を促し利用者様の小さなサインや変化を見逃さずに要望や希望を最大限受け入れながら、自己決定して頂けるよう働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活スタイルを尊重し介護支援の際は本人の気持ちを確認した上で支援し日常業務を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容・整髪や着替えも楽しみながら自己決定を促している。散髪は近所の美容室に出掛けて各利用者様の好みに応じてカットして頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人のADLや好み嚙下状態を把握し食事の配置や配膳を行っている。下膳は職員と利用者様が一緒に行う。	その都度職員が献立を考えている。買い出しのほかに地元スーパーから届けてもらう食材もある。ホールに貼られた写真には、端午の節句など多彩な行事食が見られ笑顔が多い。医師の指示で制限食に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の好みや食事の状態を考慮し支援している。献立も偏りがないよう工夫し水分のみの摂取量も800ml～1200ml以上飲んで頂けるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯使用している方等個人毎に必要な介助を把握し各利用者様の能力に合わせ個別に対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄パターンを把握し残存機能を活用した支援を行っている。又自尊心を尊重し環境に配慮した声掛け等行っている。	職員のアイデアで本人が満足できる排泄を支援し、部分サポートで自立を促している。紙パンツを換えない人に、パンツに可愛い絵を書いたり、使用済みを自分で始末したい人に新聞に包むよう勧めた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケア記録に基づき食事・水分摂取量・便の状態・ご本人の状態を総合的に判断し適切に排便コントロールが出来るよう支援している。又毎日昼食前に体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前のバイタルや状態を確認し、出来る限りご本人の希望に添えるよう支援している。入浴以外の方達には足浴の支援を行っております。	朝に計測した体温を参考にして、週2回程度の入浴をしている。下着を換え洗う人には、その人の性格を把握して、誘い方の声掛けを工夫している。羞恥心に配慮して耳元で声かけ誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さま一人一人の生活習慣を考慮し個々に休憩できる場所を用意。又休息する際に音や光に配慮し安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は各利用者様の状態に合わせた服薬支援をしています。又、処方内容が変わった際にはその都度全職員に薬の説明を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活や行事等の際に各利用者様の状態に合わせた役割をお願いし、充実した生活が送れるよう支援し、また職員はお手伝い頂いたときは感謝の気持ちを伝えお互いが信頼できる関係を築いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出するときは利用者様の体調を考慮し希望に添えるような支援をしております。また気軽にいつでも散歩できるように声がけなど行っております。	年に1度は、全員で春の花見に出掛けている。ADLの低下で頻繁な外出はできないが、夏祭りや観光イベント、買い物など体調を見ながら外出している。近くの公園に散歩することもある。正月に自宅へ外泊する人もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出に出かけた際はご自分で賞品を選んでいただき会計も一人ひとりの状態に合わせた支援をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様がご家族に電話をかけたいと希望した際は家族の迷惑のかからない時間帯に連絡してあげるようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日の大半の時間を過ごすリビングはゆったりと過ごしやすく食席の配置や季節ごとの飾りや行事の思い出の写真を飾り居心地のよい空間工夫し手をしております。	ホールの高い天井には4つの天窗があり、自然光が入る。ホールに続くウッドデッキで、お茶をするなどの気分転換をしている。日中はホールで過ごすことが多く、ボーリングなどのレクリエーションを楽しんでいる。日めくりカレンダーに担当の入居者名が貼ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者様のプライバシーに配慮し、ひとりの時間を大切にしながら気の合う利用者様同士が交流を図れるように支援をしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、利用者様が愛用していた馴染みの品々を持ってきていただき利用者様が安心して穏やかな生活出来る様にしております。	夜間における安全確保のために、入口の戸に鈴を付けて開いたのが分かるようにしている。カーテンを開けるのが嫌いな人や筆筒の整理の仕方など、それぞれの入居者の個性が尊重された部屋づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮しながらその人の能力に合わせて出来ることは時間かかっても焦らずゆっくりでも良いのでお手伝いしていただくように利用者様にお願いしております。		